

それぞれの夢と意思のインタビュー

—— 成就院で行われた喜びの席から ——

さまざまな経緯を経て「瑩山禪師の碑」は建立され、無事除幕式を終えました。

折から、米国中枢同時テロやパレスチナ紛争の激化など、宗教に起因する事態に世界は揺れ、また、急激な生命科学（クローン問題）や情報技術（IT）の進展により、グローバリゼーションの下、宗教に突きつけられた課題は少なくありません。こうした時代に宗派を超えてつくられた顕彰碑の意味には図り知れない重さがあります。そして、この顕彰碑はこれから善光寺の檀信徒だけでなく、曹洞宗の、また、清水にお参りに足を運ぶ多くの人々の心のよりどころとして、永遠にその役割を担って行くことになるでしょう。

ここでは除幕式の後に行なわれた祝宴の中から、ご挨拶やインタビューを通じて、顕彰碑に対するみなさまのさまざまな思いを伺ってみました。

これからの精進努力を胸に

発願主黒田倫子夫人

私は、寺に生まれ育ち仏飯を頂いて日々幸せに生かさせて頂いておりますので、何か感謝報恩の気持ちを表現出来ることがあればと常々考えておりましたところ、たまたま「こんなことはどうか(顕彰碑建立)」と、東先生からのお言葉をいただいたものですから、出過ぎたことだとは思ったのですが、今日の日を迎えることになりました。お声をかけて下さいました東学長先生には本当に感謝しております。

(除幕式では)謝辞を述べるようにと言われ、方丈には「唯々ありがとうございます」って言えればいいって言われたものですから、そのつもりでお願いしたけれど、昨夜「それだけでは、申し訳ないかな」と思ったりして、目が冴えて眠れなかったんです。もともと無口で口べた、

かなりそれらしく「何にも言わないほうがいいかな」と思ってた簡単にさせていただきました。

最高のお天気に恵まれ、その上両陛下にご臨席を賜わり、ほんとうに身に余る光栄です。

分不相応なこと。ありがたく感じております。

刻まれた名前が永遠に残ると思うと身が引き締まる思いで、これから精進努力が必要だなと自分に言い聞かせております。

あの場所はまた特別なところ、最高です。写真撮っても最高です。顕彰碑の後ろに三重の塔がありますし、四季折々美しく、殊に、春には桜の見事さは表現できぬ程でございます。

立地に当たり執事長さんにいい場所を何力所かご案内いただいたんです。五力所か六力所ご案内いただいて、ぐるーっと回って最後にここはどうですかとおっしゃったんですね。あーここがということ、決まりました。いい場所を

快く提供していただいた清水寺さんにはほんとうに感謝の気持ちで一杯です。

私の大学生活も京都でしたから、この京都という場所はとても縁の深いところでございます。お檀家のみなさまも京都に来る楽しみが一つ増えたと言ってくださいだったので、ホッとしました。

ありがとうございました。

蒔かれた種は必ず実を結ぶ

北法相宗大本山清水寺貫主

森清範大僧正猊下

瑩山禅師様のご縁が、今日、一つのカタチとして当山に除幕されましたことは、ほんとうにありがたいご縁です。もちろん目には見えないんですけれども、縁というものの種は必ず実が成ると、なくならない。三百年、四百年、七百年、八百年であったとしても、そのときに蒔かれた種は必ず花咲く時がある。それが今日、こ

うして関係者の方々が集まって、黒田様によって花開く。ほんとうにありがたいことです。今度はまた、これをご縁に我々が次にまた新しい種を蒔いて、いい結果を出せるように精進させていきたいと思います。

南苑の浄域に建てていただいたことはほんとうにありがたいことです。(碑が大きすぎるのはという話ができましたけれども) 決して大きいことはありません。ちょうどいい大きさです。これをご縁にますます曹洞宗の方々とおあるいはご施主くださいました善光寺様のご縁ができます。ありがとうございました。

日本の文化を象徴するもの

曹洞宗大本山總持寺貫首

板橋興宗大禅師猊下

世の中いろいろお金持ちのお寺もありますし、いろいろな事業をなさっている人もいますけど

もね、やはり外国からの留学生たちに、資金を援助したり、留学僧育英資金とか、そういう事業にお金を捧げる、情熱を捧げる、(善光寺さんの)その精神は他に類を見ないんじゃないんですか。敬服します。

ご依頼いただいたので筆をとりましたがまさかあんなにりっぱなものができるとは思いませんでした。

今、宗教が戦争の紛争の種になっているでしょう。各宗地域紛争の底には、文化の違い、民族の違いがあつて、その底に宗教が流れているんです。ところが、日本は神道があつて、八百万の神があつて、万(よろず)の仏さんがもう渾然としてますね。それが日本の宗教の特色です。

我々の心の中に八百万の神、八百万の仏様がいつでもいっしょになっているのではないですか。これが日本のすばらしさだと思いますよ。日本中、至るところ、緑したたる、自然に溶け

込む宗教が必然的に生まれるんですね。だから宗教も縄張り根性ださないですね。日本の場合、お宮さんもいっしょでしょう。仏教は後から来たんですから。それがみんな融合してしまうのです。私はそこが日本の文化と宗教の特色だと思います。これは今後、見直されますよ。

曹洞宗とか北法相宗の教え云々でなく。今日はその一つの象徴ですね。他だったらそちらの宗派とこちらの宗派は結婚もできないではないですか。その辺が日本の緑したたる自然に合している文化、風土に育まれた宗教であり、文化だと私は思います。

地元関西地区を代表して

曹洞宗京都府宗務所長村上俊鳳老師のご祝辞

私ごときがご祝辞を申し上げるのはおこがましいことですが、地元なるが故にということで、管内の寺院を代表いたしまして、お

祝いを申し上げたい
と思います。

本日は善光寺様のご発願によります瑩山禪師様にご縁の顕彰碑が除幕されました。



て、ほんとうにおめでとうございます。尚、本日は清水寺の貫主森猯下、並びに總持寺貫首板橋大禪師猯下ご臨席のもとに開眼除幕の法要が営まれたことはほんとうにおめでたいことでございます。まして、名刹清水寺とご本山總持寺様との深いえにしが再びここに結ばれて、そして清水寺で今日のような盛大な除幕が行なわれましてということとは地元といたしましても光栄に存じます。

私たち、ご本山とのご関係は、もっと遠いところにあつた感じが致したわけでございますが、この京都府の清水様に瑩山禪師様のご縁があつ

たということも改めて認識いたしました。今後宗務所管内四百か寺の檀信徒のみなさま方、また、管区のセンター統監老師もおいででございますが、これを契機と致しまして、たくさんの檀信徒の方にご参詣していただきまして、さらに深い縁を結ばせていただきたいと思ひます。

特に板橋猯下におかれましては、本年は四月に舞鶴の桂林寺さま、そして今月の三日、四日とお弟子さんがご晋山をなさいました二十三教区八坂町にもご臨席を賜つたわけでございますが、また、今回こうして大禪師猯下にはお出ましをいただき、三回も京都にお出向きなられましたことは、たいへんありがたいことで、これを機にますます大禪師様が京都にお足を運びにされますことを、我々もお願いいたします。

そして清水さんと曹洞宗とのよりいっそうの絆、関係が密接になっていきまして、この顕彰碑の意味を知っていただくことが大切だと思ふもの

であります。ほんとうに本日は発願なさいました善光寺のご内室並びにご方丈様ありがとうございます。今後ともひとつ関西管内につきましてよろしくご法愛をいただきたいと思ひます。ありがとうございます。

大本山總持寺全国嶽山会会長

横浜西有寺横山敏明老師のご祝辞

ほんとうに秋晴れの下で、瑩山禪師の顕彰碑の除幕式にお招きいただいたことに心から感謝いたしております。

そして、先程来、森
猥下、板橋猥下、黒
田夫人、黒田住職の
言葉にあつたように、
ここに集う私ども、



また、すべてが観音様のお導きがあつたということ深く肝に銘じております。この縁、この

集まり、そして、この日というものを大事にしまして、さらなる発展を念じて参りたいと思ひます。

本日はほんとうにおめでとうございました。

善光寺檀家を代表してご挨拶

檀家総代熊谷豊太郎様

本日の瑩山禪師報恩顕彰碑除幕式には光栄にも北法相宗森大僧正猥下、並びに曹洞宗大本山總持寺板橋貫首猥下にご臨席賜りまして、また、本日は曹洞宗永平寺並びに總持寺関係者のみならず並びに衆議院議員田中慶秋先生をはじめとして、大勢のご来賓のみなさまにお出でいただき、またたいへんご多忙の所、遠方からご参加いただきました。感激をもって厚く御礼申しあげます。

顕彰碑につきましては、曹洞宗との清水寺との仏縁がいろいろ深うございまして、三代にわ

たつて観音様のお恵みをいただきました。瑩山
禅師さまも同郷であります発願主は観音様のお
恵みに対して報恩の誠を捧げたいとの思いで発
願したわけでございます。建立に際しましては、
清水寺の格別のご理解とご高配をいただき、ま
た、大本山總持寺のご庇護もあり、さらに駒沢
女子大学学長東隆眞先生のりっぱな献文も頂戴
し、世界遺産の清水寺に立派に完成させていた
だきましたことは、善光寺と、私も檀信徒三
千五百軒、さらには善光寺育英会、海外留学僧
百余名の心と気持ちを含めまして厚く感謝し御
礼申し上げる次第でございます。また、念願叶
い、今日この音羽の風に吹かれる青空の下、滞
りなく除幕を垂れましてくださいました発願主
黒田倫子夫人並びに善光寺の黒田武志住職に対
し檀信徒を代表して心よりお祝いを申します。

今日の建立により清水寺観音様と曹洞宗門並
びに横浜善光寺の仏縁もいよいよ深まりますこ

とはなによりの喜びでございます。今、騒がし
い時代でございますが、観音様の大きな慈悲を
頂戴すれば現世安穩の合一をいただけるのでは
ないかと思ひまして、それもお願ひしながら、
簡単ではございますが、私の御祝いの言葉にか
えさせていただきます。ありがとうございます。

来賓であり曹洞宗檀信徒の代表として

衆議院議員田中慶秋様のご祝辞

高い所から失礼いたします。本日はこの清水
さんの一角にすばらしい顕彰碑が建立されまし
たことを心からお祝い申し上げます。また、こ
うして観音様のご縁で森尻下をはじめ、板橋尻
下ともども同席できます慶び、これも観音様の
お導きの賜物と深く感謝を申し上げますと存じ
ます。

今日は天気もよく、この京都のまちの隅々ま

で見下ろすようなすばらしい場所に建立されたわけでありますけれど、私も善光寺さんの檀家のひとりとして日頃お世話になっておりますし、黒田夫妻は先ほどのご挨拶にもありましたけれど、生涯の思い出として慶びを二人で分かちあつて、これからは奥様を大切にすることのお誓いをなされたもので、おそらく善光寺様をはじめとする宗門のみなさまがご繁栄されるものと信じています。

この建立碑が曹洞宗並びに清水さんにより深い、ますますのご縁とともにご発展されますことを心から祈念申し上げます、お祝いのご挨拶に代えさせていただきます。

「当山としても嬉しいことです」

清水寺執事長大西真興様

木は時間が経てば腐りますけれど、こういう石は何百年も何千年も不変です。ということは永

久に残ることですし、總持寺様にとつては非常に歴史的な意義のあることになりま



清水寺だけの納得ではなくて、曹洞宗様、また總持寺様のご納得いただける場所に作りませんか、何百年、清水がつまらないところを指示したということになります。そういう意味でも、清水として可能な限りの場所をご提示して、そこで善光寺様に選んでいただいたのでございます。

境内は見栄えの問題もありますし、いろいろございますが、全体のバランスもありますので、その（石碑建立の）ご希望をみな受けるということとは不可能なんです。木のものは何百年か経つとなくなりますが、石はなくならないんですよ。ですから、基本的には石のものは原則とし

て受けないことなっているんです。今回は、そういうご縁の下で例外中の、例外ということであちの管長が決断しました。

もちろん知っている人は知っていますけれども、これを縁に、多くの方がご宗派とのご縁を、また深くしていただいて、清水寺に、お観音様にお参りいただくことになれば、当山にとりましてもそれはたいへんな喜びでありますし、ご縁が深まるということはあるがたいことだと存じております。そう、どこのお寺でもそうでしょうけれど、やはりご本堂様にお参りがたくさんあるということは、お守りさせて、お給仕させていただく者とすれば嬉しいことですから。

埼玉県能仁寺萩野映明老師の

乾杯のご発声

ご指名をいただきましたまして恐縮でございます。

私は黒田老師とは私的な付き合いです。曹洞宗

の中でも最も敬意を表する方です。奥様の倫子さんもすごいパワーですね。驚きました。碑が大きすぎるような感じもしましたけれど、それは私の勝手な感想かも知れません。ほんとうに清水さんご迷惑をおかけしました。(笑)

ほんとうに素晴らしい。今まで観光でしかお参りしなかった清水さんですが、この建立によりわが宗とのご縁で非常に身近に感じまして、お参りに気持ちが入ります。

清水さん、大本山總持寺さんのいやさを祈念し、またみなさま方のご健康を祝しまして、乾杯！



黒田老師実兄、光真寺の黒田俊雄老師

中締めのご挨拶

瑩山禪師にまつわる観音碑の建立ができましたことを、縁につながるものとして、心から御礼を申し上げる次第でございます。また、板橋狛下にはこちらに御出でを賜りましたことに関しまして、特に御礼を申し述べさせていただきます次第です。

おかげさまで、両大狛下の下に無事、観音碑の建立ができましたことを心から御礼を申し上げます。この先住さんである大西良慶師は非常にご

立派な人格者であると同時に、世界の和平に関しまして、お互いに手を繋いでいかなくはないかといとお考えになり、世界宗教者会議などにも深くご理解をいただいております。今般、森猊下にはこのような温かいご配慮をいただきました

て、この顕彰碑の建立ができましたことを心から喜び、これをご縁に、限りなく、世界平和のために心を尽くさなければならぬのではないかと思います。

今、世界はアフガンの問題に見られますように、宗教に起因する戦争が云々されておりますが、それはやはり、我々宗教者同志が方向を共有し真理をしっかりとわきまえて宗教の和を大事にさせていただく、ということを思います。き、やはりこういうご縁を頂戴させていただいたことに大きな意義を感じる次第でございます。

このたびの顕彰碑建立につきましては、心から感銘をし、森猊下並びに板橋狛下のこのご慈慮に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、観音様のお力をいただいて世界の宗教がお互いに手を結ぶような何か一つの糸口にさせていただければ、こんなありがたいことはないと思うわけでございます。ここにご来会のみなさま方

に対しまして心から御礼を申し上げまして、挨拶にかえさせていただきます。

ありがとうございます。

「心が洗われたような気がします」

善光寺檀信徒伊藤初枝様

もう、「ほんとうにすばらしかった」のひと言ですけれども、なんとも心が洗われました。やはり宗教は、とり違えたり、履き違えると混乱と問題を起こします。今世の中でなんと履き違えによって、そういう争いがありますでしょう。ただ、ここへ来て、それが絶対にいけないことなんだということを感じました。こゝろでなくてはいけません。



今この時期ですから、なおさら感じました。

私自身も心を洗われました、今日は。おかげさまで。善光寺檀信徒の一人として改めて方丈さんご夫婦の立派さを再認識いたしました。こんなにもいいことをなさっていたら、檀信徒の私どもの誇りでありほんとうに嬉しゅうございます。